

「陶芸を活かした心と身体のサポート ―協働で取り組む形の考案― 」

コース・専攻：総合芸術 美術・工芸専攻 29 期

グループ名：晴ればれ

メンバー：桑原、酒井、樋口、松岡、南、宮本、村津、渡辺

趣旨：笑顔になる作品・癒やされる作品など、元気の出る陶芸は、心の安定となり免疫力アップに繋がる。そこで形にこだわり、日々の暮らしをより豊かにする陶芸を模索した。

目的：「陶芸活動は心と身体の両面にメリットがある」と仮説し考察する。
個性と協働を起点として、役割を活かしたグループ学習の目的を参画型のワークショップ形式で「私たちの KOBE」を創作した。

内容：各人の人格を尊重して自らが取り組みたい課題を担当し、協働で制作して学び合った。
合同制作の作品は、8両連結の電車と六甲山系などとした。
協働性を高め、テーマに沿った統合創作を完成させ、その創作課程から何かを感じ取り伝えるメッセージを残した。

結果：本メンバーは公私に事情を持ち全員で集まる機会は多くはなく、グループ内での作陶とのバランスは楽しいことばかりではなかった。
しかし、土を捏ねモノを作ることは心穏やかにもなれ、精神面と脳活動にも活性化することができ、心身のリハビリテーションに繋がった。
グループ学習を通して検討してきた「陶芸活動は心と身体の両面にメリットがある」との仮説は、実証できる実践プログラムとなり肯定することができた。
グループ学習テーマに沿った無限大の創作を目指した結果、テーマの「陶芸を活かした心と身体のサポート」との関連を発見し、発信力のある貴重な研究となった。

メッセージ：メンバー8人の多様性と共生を活かして作品が完成した道のりを振り返ると、個性が融合して完成した作品による統合創作のメッセージは、多様な食材を巧みに組み合わせた一皿の【サラダ】となり、異なる個性を持った人々が集まり互いを認め合い尊重し合う姿に重なった。
これこそが本グループが求めている最終形である。

